

## ◆ 主な認知症の種類

### アルツハイマー型認知症

最も多い認知症で、ゆっくり進行する。もの忘れから症状が始まることが多く、段取りなどできていたことが徐々にできなくなる。

### レビー小体型認知症

子どもや動物、昆虫など生々しい幻視が現れる。睡眠中に大声をあげたり、ばたばたしたりする。手足の動きがゆっくりになり、動きが減り、歩行は小刻みになる。時間帯や日によって症状に変動がみられる。

### 脳血管性認知症

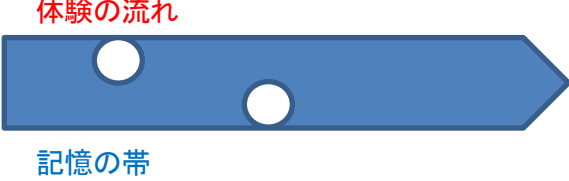
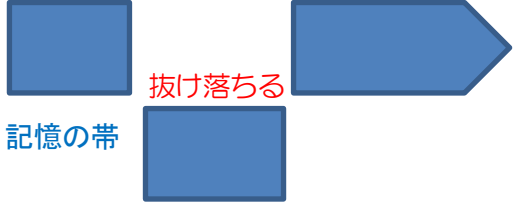
脳梗塞など、脳の血管の異常で起こる。気分の落ち込みや意欲の低下が出やすく、怒りっぽくなるなど感情の制御がしにくい。手足のマヒなど運動障害が起こることがある。

### 前頭側頭型認知症

理性をつかさどる前頭葉を中心に脳が委縮する。遠慮がなくなり、行動に抑制が利かなくなる。万引きや交通違反などの反社会的行動を取ることがある。興味や関心がなくなると話の途中でも立ち去ることがある。記憶力は比較的保たれる。

※認知症の原因となる病気は、60～80種類あり、混在することもあります。

## ◆ 老化によるもの忘れと認知症によるもの忘れの違い

	老化によるもの忘れ	認知症によるもの忘れ
原因	老化	脳の病気
記憶	体験したことの一部を忘れる 新しいことを記憶できる 約束をうっかり忘れる 	体験したこと全体を忘れる 新しいことを記憶できない 約束したこと自体を忘れる 
見当識	曜日や日付を間違えることがある	季節にそぐわない服を着る 通い慣れた道を間違える
判断力	低下しない	低下する（認識力や理解力が落ちる）
日常生活	さほど支障がない	支障がある
もの忘れの自覚	自覚している 手がかりやヒントがあれば思い出す	初期にはもの忘れの自覚があるが、自覚に乏しい